

ふるさとのお話

天間川坂の 手無観音



△神々しい手無観音様

身延線富士根駅北側の天間川坂地区に、靈験あらたかだとい
う「手無観音」を祭っている観音堂があります。今回は、この
「手無観音」にまつわる話を天間川坂の遠藤光一さん(77歳)、う
め子さん(73歳)夫婦に語ってもらいました。

流れてきた観音様

今から400年くらい前、將軍足利義
輝の時代のことで、小泉村に喜六
という魚取りの好きな人がありまし
た。ある晩潤井川へ網をしかけ、翌
朝、網を引き上げると、かかっていた
のは魚ではなくて12寸ほどの木
像の観音様でした。

川を流れている間にとれてしまっ
たのか、手は2本ともありませんで
したが、神々しいほどの顔をして
いました。喜六はともかく家へ運ば
うと、木像を懐に入れて川坂までき
ました。そして、大きな松の根元の
石に腰をかけ、木像を石の上におい
て一休みしました。

しばらくして、木像に手をかけると、
木像はみるみるうちに人間と同じ
大きさになりました。びっくりし

た喜六が両手で持ち上げようとして
も、観音様はビクともしません。喜
六は、「この観音様がこの地に長く
住んで、人々を救おうとおぼしめ
しに違いない」と思い、大急ぎでほ
こらをつくって安置したそうです。

婦人病にご利益

遠藤さんは「この手無観音様は婦人
病にご利益があるといわれています。
毎月14日に地域の人でお経を上げま
す。8月14日、15日には、大祭が行わ
れています。」と語ってくれました。



△語ってくれた
遠藤さん夫婦

地名の由来

石井



この村は、鶴無ヶ淵から1里余
り北方で、大岳から南へ延びた尾
根の西側の麓に、へばりつくよう
にできた集落です。江戸時代の始
めごろの開発だと思われます。

石井という名は、石で囲った井
戸があったからだという説があり
ますが、確かなことは不明です。

鈴木という姓の家が大部分です
から草分けは鈴木氏でした。

富士の あゆみ

大伽藍のある実相寺



岩本の実相寺は、総門・三門
庫裡・釈迦堂・本堂・祖師堂・
一切経蔵などの大伽藍がある市
内随一の大寺です。建てられた
のは、1145年～1150年(久安年
間)で、寺は4層四方あったと
伝えられています。

1258年、日蓮は一切経蔵へ入
りました。日蓮はこのころ相次
いで起こった地震や洪水などの
原因は何か、経文を確かめよう
としたものでした。この後、日
蓮は鎌倉へ帰り、立正安国論を
書き上げました。

1268年、実相寺に第4代院主
排斥問題が起こりました。それ
は院主の余りの乱行に、実相寺
の滅亡を心配した四十九院の学
僧日興を中心とした衆徒が、鎌
倉幕府へ院主交替を訴えた事件
でした。

日蓮の命日に当たる11月12・
13日は、お会式が行われます。

こちら編集室

秋の夜長、空には大きなお月様。
薄明かるい外の景色は、見慣れてい
るはずなのに、なぜかロマンチック。
そういえば、近々ハレーすい星が接
近します。時には星もすてきですよ。